

1. 「総合的な学習研究会」の趣旨

新しい学習指導要領では、自ら学び、自ら考える力など「生きる力」の育成を基本的なねらいとして「総合的な学習の時間」が創設された。「総合的な学習の時間」は、中学校では2000年4月からの移行期において実施され、さらに2002年4月から全面実施される。また高等学校については2003年4月から学年進行で実施されることが決まっている。これまで、国立大学の附属学校等を中心に、実施に向けての実験的な実践が進められ、多くの実践報告がなされているが、実施に向けて、理論構成に基づいたカリキュラム編成が行われている例は少ない。特に高等学校については、実践例も少なく、カリキュラム開発研究への期待は大きい。

本研究会は、当校のこれまでの「総合的な学習」に関連した研究実績と、総合大学である広島大学の附属校としての特色を生かして、21世紀の社会の要請に応えることのできる「総合的な学習」の理論構成とカリキュラム開発を行うことを目的に発足した。この研究会では、当校の中学校・高等学校一貫教育の中で、6カ年の系統性と生徒の発達段階に応じたカリキュラムの開発を行う。また、広島大学各学部の教官を含む「指導委員会」を設置し、具体的な単元の開発においては各分野の専門家の指導助言を得ながら、内容構成やカリキュラムの検討および実践研究を行う。

「総合的な学習の時間」の実施については、各学校は地域や学校、生徒の実態等に応じて、横断的・総合的な学習や興味・関心に基づく学習など創意工夫を生かした教育活動を行うものとされている。ねらいや活動の例は示されているが、具体的な内容は各学校にまかされている。そのため各学校にはカリキュラムを独自に開発することが求められている。現実には各学校の裁量の幅が広いだけに、カリキュラム作成にはさまざまな知識や経験と労力を要すると考えられる。そこでこの研究会は、当校における研究実践を広く公開し、情報を共有し研究を進めることで、カリキュラム開発のための支援体制を構築することも意識している。

研究実践の主な内容は以下のとおりである。

①「総合的な学習」のカリキュラム開発

中学校・高等学校6ヶ年における「総合的な学習」の理論構成を行うとともに、それぞれの学習レベルに対応した、学習目標を明らかにする。各学年に対応した具体的なカリキュラムを開発するとともに、本校において実践研究を進める。

②「総合的な学習」の評価のあり方、評価方法の開発

各学年毎に総合的な学習のねらいと育まれる能力、評価の観点を明確化し、適切な評価方法を開発する。

③「総合的な学習」の実践の検証（カリキュラム評価）

学習の目標やねらいが達成されたのかを多面的な視点から検証し、指導のあり方やカリキュラムの改善点を明確にする。

④高大連携による研究実践

研究組織の中に、広島大学の各学部の先生方を中心に構成する指導委員会を設置し、カリキュラムの全体的な構成や学習内容について助言や具体的なお提案を得ながら研究実践を進める。

⑤研究実践の公開

毎年9月の公開研究会において、「総合的な学習」の公開授業および分科会等を開催し、研究実践の成果を発表する。また、本校がインターネット上に設置しているWebサイト「総合的な学習のひろば」でも研究の公表を行うとともに、総合的な学習に関するデータベースを充実し、他校との研究交流を拡げる。本校を核にした「総合的な学習」の研究の輪を構築することを目指す。